

JOYO BANK NEWS LETTER

2023年4月3日

サステナビリティの組織内浸透に向けた取り組み開始について ～JOYO GXプロジェクト～

常陽銀行（頭取 秋野 哲也）は、このたび、脱炭素社会の実現に向けた取り組みの一環として、事業活動における環境負荷の低減に取り組む「JOYO GX（グリーントランスフォーメーション）プロジェクト」を開始しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

当行を含むめぶきフィナンシャルグループは、「グループサステナビリティ方針」および「グループ環境方針」を定め^{*1}、2030年度までに自社グループのCO2排出量をネット・ゼロとすることを目指しています。本取り組みは、当行全営業店および本部において、事業活動における電力使用量および紙資源消費量の削減目標を設定し、行内外の知見などを共有しながら、全役職員が一丸となってCO2排出量を削減していくものです。

当行では、今後とも役職員へサステナビリティへの取り組みの浸透を図るとともに、持続可能な社会の実現に向け、省エネ・省資源への取り組みを積極的に推進してまいります。

※1 2022年3月28日付 ニュースリリース「サステナビリティへの取組強化について」を参照ください。

記

1. JOYO GXプロジェクトの概要

名 称	JOYO GX（グリーントランスフォーメーション）プロジェクト
対象部店	全営業店・本部
実施期間	2023年4月～2024年3月
削減対象	① 節電（当行全施設における電力使用量の削減） ② 通帳レス（紙通帳からWEB（無通帳）口座への切替推進による紙資源の節約） ③ 印刷レス（業務デジタル化による紙使用量の削減）

2. CO2 排出量削減効果

年間 900 トン見込（2021年度の常陽銀行のCO2排出量の約8%相当）

3. 地域の脱炭素化に向けた貢献

本取り組みによるCO2排出量削減効果の一部を、地域の脱炭素化に資する資金として還元することを予定しています。

以 上



常陽銀行

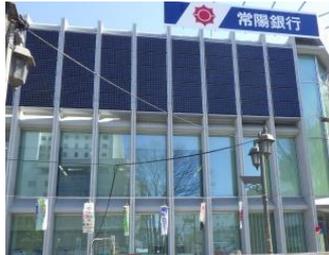
MEBUKI
めぶきフィナンシャルグループ

常陽銀行

〒310-0021 茨城県水戸市南町2-5-5
Tel. 029-231-2151(代表) www.joyobank.co.jp

【ご参考資料】

■CO2 排出量削減に向けた当行の取り組み

対象※2	取組事例
Scope1	<p>○営業車の脱炭素化 ⇒ガソリン車から環境対応車へ順次移行中 ：移行率78%（2023年2月末時点） ＊2030年度までに全台入替完了予定</p>  <p>環境に対応した営業車の一例</p>
Scope2	<p>○大規模拠点に再生可能エネルギーを導入 ⇒2022年7月、常陽銀行の大規模拠点（本店、つくばビル、ひたちなかビル、事務センター）に再エネ電力を導入 ：上記4拠点への再エネ電力導入によるCO2削減効果は、年間約3,400 tを見込む</p> <p>○環境配慮型店舗への移行 ⇒新店舗への太陽光発電システムの設置 ：8店舗に設置 ⇒店舗照明のLED電球への切替 ：109店舗完了（2023年2月末時点） ＊2024年度までに全拠点切替完了予定</p>  <p>太陽光パネル設置店（福島支店）</p>
Scope3	<p>○取引デジタル化によるペーパーレス化 ⇒2022年4月、事業性貸出・住宅ローンの電子契約化をスタート ：電子契約利用率90%超（2023年2月末） ⇒マイカーローン・教育ローンのWEB契約 ：WEB契約率97%（2023年1月末） ⇒個人の普通預金口座の無通帳（WEB）化 ：新規開設時のWEB口座率97.8%（2023年2月）</p> <p>○行内ペーパーレスの推進 ⇒2024年度末までに紙使用量90%削減（2021年度末比） ：営業店全行員のデジタルデバイスの実装（モバイルPC、業務用スマートフォン）、ワークフロー電子化、FAXデジタル化などを実施</p>  <p>デジタルデバイスの活用事例</p>

※2 Scope1：事業者自らによるCO2の直接排出

（営業車のガソリンや非常用電源の重油などの使用によるCO2排出）

Scope2：他社から排出された電気、熱、蒸気の使用に伴う間接排出

（照明や空調の電力使用によるCO2排出）

Scope3：Scope1、Scope2以外に間接排出

（紙の購入や役職員の通勤・出張、投融资先によるCO2排出）